

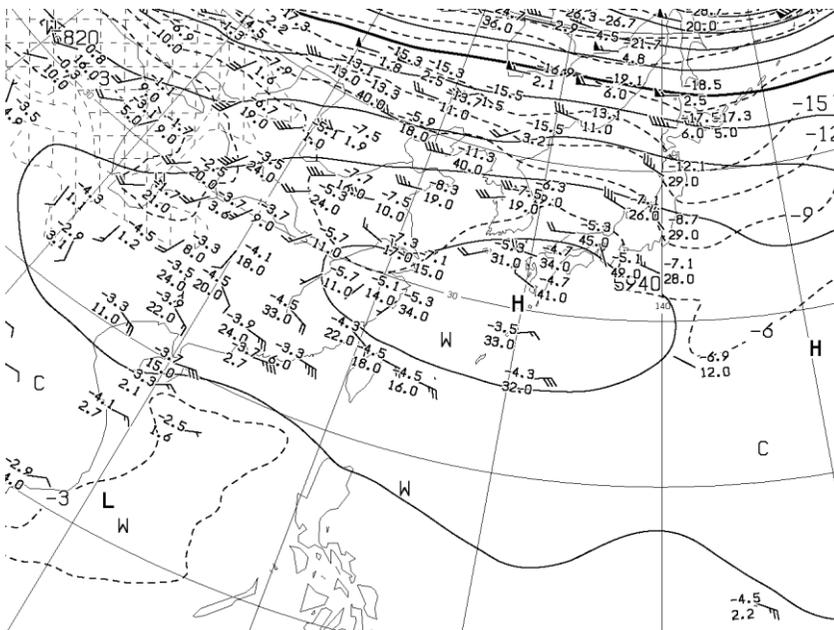
気象コラム(7)

大阪労山のみなさま、10月7日から9日の三連休の山行はどうでしたか？

この三連休の天気は、ざっくりとえば、7日は雨、8日と9日は晴れでした。特に、8日と9日は10月にしては気温が高く暖かいという特徴がありました。

通常、10月といえば秋が徐々に深まる季節であり、「ひと雨ごとに寒くなる」と言われる時期ですが、今年の三連休は、雨の後に気温が上がるという、いつもの秋らしさとは少し変わった感じになりました。

そこで、今年の三連休はどのような気圧配置だったかを、天気図を使って検証したいと思います。下図は10月8日午後9時の500hpa 高層天気図です。九州の南に中心(Hの文字)を持つ閉曲線(高気圧)があります。この線は5940mの等高度線です。さらに、その周囲を大きく取り囲む線(左側が閉じている線)は5880mの等高度線です。当コラムの(4)に書いたように、5880mの等高度線は太平洋高気圧の目安になると言われている線です。下図の高気圧は夏の太平洋高気圧とは成り立ちが異なるものですが、もたらず気象は似ていると考えてよいでしょう。5880mの等高度線が東北地方南部にまでかかっているので、日本の上空は広く夏の太平洋高気圧に覆われているのに似た状態であった、と言えます。このため、上空の寒気は北へ追いやられたことが、暖かくなった理由のひとつと考えられます。興味のある方は、地上天気図やこの前後の天気図とも照らし合わせてみてください。



(高田和孝/H.C.teruru)